

## 私が日本への留学を選んだ理由

寇家瑞  
KOU JIARUI

私は2017年に短期留学生として熊本県玉名市にある九州看護福祉大学に来ました。私は中国で日本語を専攻する短期大学で学んだので、日本語の基礎知識はあり、九州看護福祉大学に来て1年間くらいの日本大学生活を体験しました。この1年間で、まず日本語が理解できるようになったし、後は社会福祉という専門に興味を抱くようになりまし。日本の社会福祉は中国よりはるかに進んでいる。中国の高齢化も年々深刻化しており、社会福祉に携わる人材の確保が急務と考え、九州看護福祉大学社会福祉学科に入学しました。

私が最初に日本文化に触れたのは、小さい頃に見たアニメ、例えばドラゴンボールやドラえもん、デジモンなど、その年代には馴染みのあるアニメがきっかけでした。しかし、私が言わなければならないアニメは一つがあります。それは久保帯人先生の「Bleach」です。このアニメで日本文化に興味を持ち、人生が変わりました。中学生の時に友達に勧められて「Bleach」を見たのがきっかけで、アニメが好きになり、日本のアニメに対する見方も変わりました。中国の大学に進学する際、受験した学校に日本語専攻があることを知り、迷わず日本語専攻を選びました。中国の大学を卒業する前に、日本の九州看護福祉大学に交換留学生交流の一環として、短期留学生として派遣されました。

入学して半年後、社会福祉関係の障害者向けアルバイトで生活支援員として初めてのアルバイトをしました。私は社会福祉を専攻しているので、この仕事はその後の勉強や日本の社会福祉を理解す

る上でとても役に立ちました。仕事を通じて、日本がいかにか高齢者や障害者を大切にしているか、また、法律と制度が整っているかを学びました。社会福祉仕事の一端を直接体験することができる。障害者や高齢者の心理や現状について理解を深めることができ、社会福祉を学ぶ決意を固めることができました。福祉学科では社会福祉に関する科目は幅広く、様々な知識を学べるし、施設を見学する機会もありました。大学の先生達は面倒見がよく、わかりにくいの際にも丁寧に答えてくれたので、とても感謝しています。勉強だけでなく、日常生活でも大学や政府から支援を受けています。もうすぐ卒業しますが、大学卒業後も勉強を続け、日本の社会福祉の経験を詳しく学び、中国に戻ったときに自分の知識や力を福祉分野に役に立てるようにしようと思っています。